

ちよんじつご

第二三八号 つねならむ

とうとう師走に入りました。ここまで来たら、一茶ではないですが「ともかくも あなたまかせの年の暮」、佛任せにするより仕方ないでしょう。当山では約六十年毎年熱田神宮様・伊勢の内宮様・外宮様に御挨拶をし、御札様を受けてまいります。論語の中に「祭ることに在すが如くす。神を祭ること、神在すが如くす。」とあります。形式的に唯祀れば良いのではなく、現に坐すと思ひ取りて供養しなさい、と孔子は言っています。我々のご先祖様の供養にしても同じことが言えます。仏壇に位牌が置いてあるだけでは困ります。仏壇は先祖の倉庫ではありません。ご先祖をお祀りし、供養をするところです。財ある時も、無き時も、自己の存在に感謝できない時も、一隅を照らせる供養を。

私は茫茫とした時を過ごし今年も終わりそうです。日本のあちこちで、今年も多くの方々が災害に見舞われ、年越しもままならない状態でお困りの事と推察いたします。災害のニュースを見れば一目瞭然然然自失すること間違いないでしょう。北原白秋のように「風吹けば風吹くがまま、我れはただ揺られ揺られつ」、自然の猛威になすすべは無いかも知れません。日頃より災害に対して関心はアルもののさしたる準備もせずにあります、遭遇したらさぞ慌てることでしょう。「備えあれば憂いなし」と、言葉は簡単ですが実行は難しいものです。どこまで準備すれば事足りるのか、伊勢湾台風の大変だった記憶は残っていますが、身体のほうが忘れてきています。ときの流れは怖いものです。

一年の総括テレビ番組の多くに批評家の方々が夫々の意見・見解を述べて見えます。それで番組が成り立っていますが、ロシアの小説家ゴリキーは「批評家というものは土地を耕す馬の邪魔をするアブのようなものです」と言っています。確かに娯楽番組のように番組の受けを狙つての人選もあるでしょう。批評家に責任は生じません。やはりセッションの場とは違うものがあります。

「言語分析の研究されたビットゲンシュタイン博士は「ほんとうのことを云うのは、嘘を云うより、しばしば、ほんのちよつと苦痛であるにすぎない。」と言つて見えます。さくらの会ではないですが、国会議員の方々如何でしょうか。言い訳するより良いと思いますが。嘘も方便なんて使うからいけません。佛の方便は意味が違います。真実を得るために用いる方法という意味です。

人間は単独で存在しているものではなく、他の様々の人、もの、社会関係によって生かされている。組織というもののほど怖いものはない。名刺肩書で歩み始め、組織は自分というものを錯覚し忘れさせる。世の中、何時ティファニーのように統合され下に入る事になるかわかりません。統合されれば、人員削減は当然です。果して一部分しか知らない人達の身は保証されるでしょうか。人生に保証はありません、何時災難が降りかかるのか分かりませんし、順風満帆かもしれません。一度風吹く日が来れば、大切なものを失う自然災害と一緒にです。しかし、一生懸命が身を助けてくれるでしょう。全てに生かされているという思いが「捨てる神あれば拾う神あり」という事になります。一年をまとめ上げる月です。良きにつけ、悪機につけ、素直に受け止め、来年の糧にしましょう。人道に良き足跡を残すことが出来る様に努力精進しましょう。良い年をお迎えください。